

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・年度初めに、区と拠点合同で「協働とはなにか」をテーマに研修を行ったことで、協働事業への共通の認識をもつことができた。
- ・重点目標に掲げている「妊娠期からの切れ目ない支援」について、日頃から情報共有等を行った。
- ・お互いの立場や組織が違う中で、「区民」に対して様々な事業を広く実施すること等について、情報の共有や検討が不足したまま事業を進めてしまうことがあった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・毎年度、年度始めに達成すべき大きな目的や理念についても話し合い、再確認をしていく必要がある。
- ・それぞれの立場で「区民」にとっての最善を意識しながら意見を出し合い、事業を組み立てていく必要がある。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・色々な関連団体や施設等と連携して事業を実施することができた。
- ・お互いの強みを生かしながら、適宜確認を取り、事業を進めることができた。
- ・事業を進めるにあたり、認識の違いや情報の共有等について、事業ごとに差が見られた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・どの事業においても、物事を密に共有しながら進めていく必要がある。
- ・毎月行っている定例会の在り方も重要であり、報告や情報共有だけではなく、事業の進捗状況や問題点、事業終了後の見通し等も含めて、議論を深めていくことも必要である。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・事業評価を行ったことで、双方の認識を改めて合わせるすることができた。また活発に意見交換をすることができ、お互いの認識の相違等にも気付くことができた。
- ・協働事業だからこそ取組むことができた事業もあった。その反面、その後の効果まできちんと話し合う時間をとることができず、成果・課題を十分に確認しあえないこともあった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・お互いの認識に相違があった場合は、その都度話し合いを行なっていく必要がある。
- ・今後も区と拠点で活発に意見交換を行い、共通認識を持って次の事業実施につなげていく。